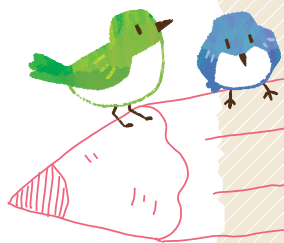


文部科学大臣賞  
中学生の部



「大好きなお姉ちゃん」

鴻巣市立川里中学校  
3年 小久保 怜奈さん

私には今年二十一歳になる姉がいる。姉には知的障害という障害がある。知的障害の程度は、軽度、中等度、重度、最重度の四段階に分けられる。私の姉はこの四段階に分けると重度で、これは三〜六歳相当の知能なのだ。知的障害とは簡単に、学習の遅れ、コミュニケーションの困難、社会生活への適応の遅れなどがある。

多くの人は「あれができない」「これを理解していない」など、そんな姉のマイナスな面を見るだろう。でもできる事だっただくさんある。

例えば、継続する力。姉は、小学生の頃から毎日

例えば、本人のできないことではなく、できることを探して伸ばす。初めに言ったように「障害」と聞くと、つい思い浮かぶ事に目がいついてしまう人が多い。でも、私たち周りの人間が気づき、本人にも気づかせてあげること、本人の自信にも繋がると思おう。

また、経験する機会を増やすこと。それは、私たち周りの人間にも、姉自身にも同じことが言える。私たちが福祉のイベントやボランティアに参加することで、障害のある人たちとの関わりを深めることができる。そして姉自身もたくさんの人や場所を経験することで、新たな発見ができる。たくさんを経験が姉をつくっていくのだと思おう。

さらに、私たちが障害のある人のことを理解しようとするのが大切である。「理解できない」と「理解しようとしていない」は全くの別物だと思う。姉は自分の気持ちや考えなどをはっきり伝えられないことがある。特にお店で、姉が食べたい物を「自分で言いたい」と自分の口から相手に「これをください」と言いつつ。姉は知らない人と話すとき、「自分の

お風呂掃除をやっている。「だから？」と思われたいりするかもしれないが私は本当にすごいと思う。今日から頑張る！」「毎日やる！」「口で言うのは誰でもできる。でもずっとその気持ちを持ち続け、継続するというのは本当になかなかできないことだと思う。

また、姉は高校を卒業してから仕事をしている。姉は難しいことはあまりできないため、仕事内容は単純作業だが、世の中の大人と同じように働いている。そして、仕事をしている姉の一番すごいなと思うところは、「楽しんで仕事をしている」というところ。世の中の人は、「やらなくちゃいけないから」「お金を貯めなくちゃいけないから」など、「楽しい！」「と仕事をしている人は多くないと思う。姉は帰ってくる時も、「今日どうだったよー」と嬉しそつに話してくれる。私はそんな姉のことが大好きだ。そして、これからも姉が楽しく仕事をして、生活するためには周りの人の協力が必要不可欠である。

言葉で伝えたい」とは思うけど思っていることを相手に伝えるというのは、姉にとつて私たちの何十倍も緊張することなのだ。そして、そういった時の相手の態度はだいたい二パターンに分かれる。一つは、一生懸命注文しようとしている姉を優しい目で見守り、「かしこまりました」と笑顔で対応してくれる人。二つめは、姉に冷たい視線を送る人。その人に悪気はなくても姉や、私たち家族からすると嫌な印象を受けてしまう。私はこれから、障害のある人たちに對して理解してくれる人が増えたらいいなと思おう。

最後に私は「見えている事だけが全てじゃない」ということを一人でも多くの人に知ってほしい。人間はその人の見えている事だけで、その人の全てを決めつけようとする。でも、見方を変えてみたり、もう少し視野を広げてみることで、その人の魅力がたくさん見えてくると思う。私は姉のことを「障害がある人」ではなく、「一人の人間」として見てほしい。お姉ちゃん、ずっと大好きだよ。

